

令和4(2022)年度 文化庁委託調査研究事業報告書
文化関係資料のアーカイブの構築に関する調査研究
～放送番組の脚本・台本のアーカイブ構築に関する調査研究～



一般社団法人 日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム

目 次

- 第1章 本事業の概要と実施状況
- 第2章 脚本の所蔵調査および収集の実施
(国立国会図書館への大規模寄贈作業について)
- 第3章 脚本現物のデジタル化について
- 第4章 目録の作成及びデータベース公開について
- 第5章 大学機関との連携研究
- 第6章 所蔵館との連携体制の構築に向けた調査研究
- 第7章 検討委員会
- 第8章 シンポジウム等のイベント

第1章 本事業の概要と実施状況

1. 事業名

文化関係資料のアーカイブの構築に関する調査研究
 ～放送番組の脚本・台本のアーカイブ構築に関する調査研究～

2. 目的

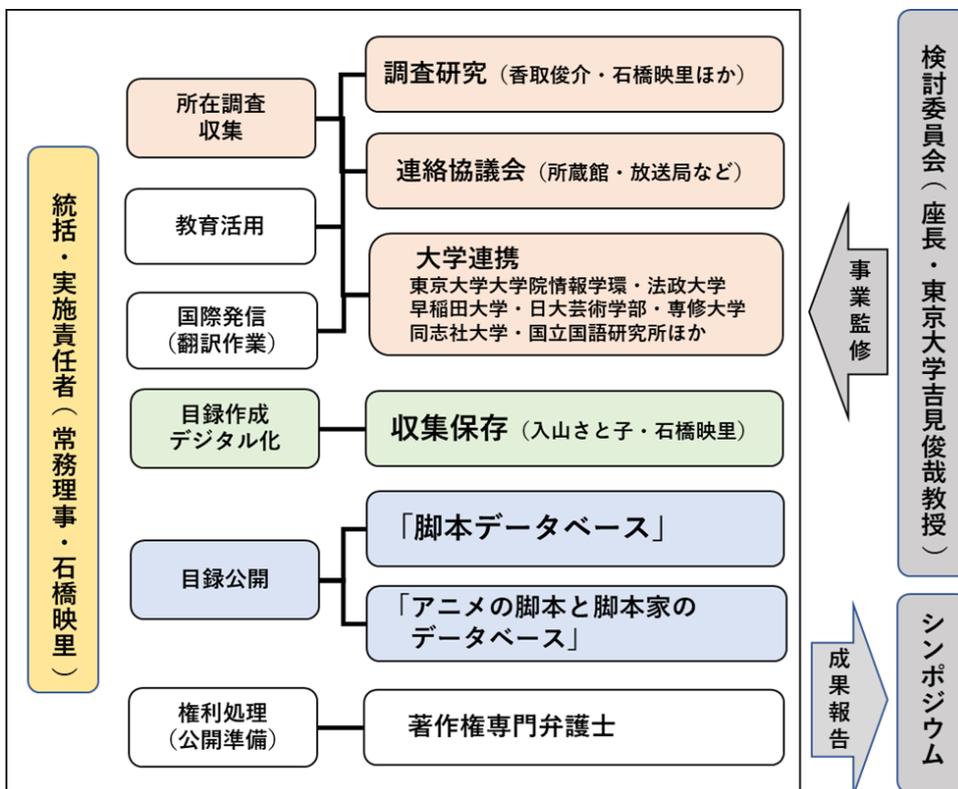
歴史的・文化的価値のある放送（テレビ・ラジオ番組）の貴重な文化関係資料が散逸・消失することがないように、資料の保存及び活用を図ると共に、デジタルアーカイブ構築推進を目的とした調査研究を行う。

3. 事業期間

令和4(2022)年6月8日～令和5(2023)年3月31日

業務項目	実施日程										
	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
1 脚本のデジタルアーカイブ化に関する研究	脚本収集、書誌入力随時										
2 目録の作成及びデジタル化(目録に関する研究)	デジタル化/目録作成随時										
3 所蔵館との連携体制の構築に向けた調査研究	国文研移管 国会図書館への移管作業										
4 委員会の開催、シンポジウム	理事会				検討委員会			検討委員会	理事会	シンポジウム/検討委員会	

4. 実施体制



5. 2022年度の研究調査事業概要

5.1 脚本のデジタルアーカイブ化に関する研究(脚本現物資料の研究)

①脚本の所蔵調査および収集の実施

2023年3月現在、収集した脚本資料は115,743冊（うち今年度の収集実績は2,243冊）。
本年度は国立国会図書館への第二期寄贈を完了させることが大きな課題となっていたため、新規寄贈を中断し、緊急な資料のみ受け入れた。

【年度別収集資料の内訳】

※2023年3月 収集済資料

分類	寄贈・移管先	資料合計	R4年度	R3年度	H17年度 ～R2年度
1980年以前の放送脚本	国立国会図書館	27,219			27,219
1980年以前の放送脚本(手稿702点含む)	国立国会図書館(複本除き寄贈手続き中)	31,995	4	1,917	30,074
1981年以降の放送脚本	川崎市市民ミュージアム(市内施設保管中)	26,075			26,075
1981年以降の放送脚本	倉庫保管(資料など含む)	2,365	437	1,928	
映画シナリオ	国立映画アーカイブ(約780冊倉庫保管)	3,522	638	115	2,769
演劇台本	早稲田大学 坪内博士記念演劇博物館	1,892	32	72	1,788
生原稿(世田谷由来の作家)	世田谷文学館	91			91
生原稿	倉庫保管	303			
アニメ	倉庫保管	9,933	30	77	9,826
歌謡ショー等イベント	住友倉庫保管(移管先未定)	421			421
複本	住友倉庫保管(国会図書館から抜いた複本965冊含む)	5,555	966	245	4,344
複本(年1000冊を目標に移管予定)	国際日本文化研究センター(1034冊移管)	2,822			
複本	寄贈元放送ライブラリーへ返却	2,103			2,103
NHK放送の複本	NHKアーカイブスへ返却	633			633
行先未定資料		136	136		
劣化、個人資料など	返却・廃棄	678			678
	総計	115,743	2,243	4,354	106,202

② 国立国会図書館への大規模寄贈

■燻蒸及び輸送作業について

i) 作業概要

2022年度内（2023年3月末まで）に脚本および資料の寄贈完了に向けた作業を実施
31,995点の資料について排架完了。寄贈完了手続きは2023年度になる予定。

ii) 燻蒸作業について

搬入搬出：株式会社ニチマイ

燻蒸作業：関東港業株式会社

iii) 燻蒸作業概要

- ①施工方法：被覆燻蒸施工
- ②使用薬剤：殺虫殺菌燻蒸剤 エキヒューム S
- ③投薬方法：間熱気化器を使用した完全ガス化投薬
- ④燻蒸時間：36時間

iv) 燻蒸作業結果について

- ①公益財団法人文化財虫菌害研究所により殺虫処理効果判定を行った。
- ②殺虫処理後のテストサンプルを温度27°C、湿度70~80%R.H.の環境条件下で約1ヵ月保持し
成虫・蛹・幼虫の生存はなく、虫卵の孵化も認められなかった。
- ③殺虫殺卵効果は100%となっている。

■国立国会図書館内への寄贈に向けた手続きについて

(i) 現物の排架作業

作業は当コンソーシアムのスタッフ4名により3回に分けて行った。

【第一回作業】250箱 終了

- ・10月31日 倉庫より搬出⇒燻蒸処理
- ・11月17日 国会図書館への搬入
- ・11月21日~22日 排架作業

【第二回作業】250箱 終了

- ・11月28日 倉庫より搬出⇒燻蒸処理
- ・12月13日 国会図書館への搬入
- ・12月14日、16日、19日 排架作業および中性紙封筒の一部差替え作業

【第三回作業】残り100箱（中性紙平箱約40箱含む）

- ・表紙撮影（生原稿は表紙がないものが多いため未撮影）
- ・1月16日 事務所より搬出⇒燻蒸処理

- ・2月1日 国会図書館への搬入
- ・2月2日～9日 排架作業

(ii)権利処理について

① 寄贈者への連絡

令和3(2021)、令和4(2022)年度の寄贈者のエントリーシート送付：27名
著作権者：15名（インターネット公開OKチェック：8名）

② 著作者への連絡

脚本の作家団体所属メンバーへの連絡文をリストと共に送付

③ 大学、その他資料館の所蔵把握（収集を前提としない資料）

- * 須賀川特撮アーカイブセンターへの現地視察・ヒヤリング
- * 須賀川市の円谷英二ミュージアム見学
- * 須賀川市文化センター「アニメージュとジブリ展」見学
(実施日：2022年11月3日)

④ 放送局（特に民間放送）・制作会社等（収集を前提としない資料）

放送局等に所蔵されている脚本の保存状態や管理について引き続き情報共有の依頼を行った。

⑤ 脚本現物のデジタル化について

■収集した脚本資料の目録作成

- ・収集した脚本資料の書誌入力を実施。国立国会図書館への大規模寄贈の対象となる1980年以前の脚本を優先して実施した。
- ・代表作については、あらすじを順次作成。日本放送作家協会所属の脚本家が担当した。
- ・国際発信を視野に、書誌情報はローマ字表記を行い脚本データベースの英語版に掲載した。アニメ脚本のあらすじを優先し翻訳を行い、脚本データベースの英語版に掲載した。
- ・Japan Content Catalog (JACCサーチ) やジャパンサーチとの連携を継続して行った。

■資料のデジタル化

- ・脚本資料の表紙撮影5471冊を行い、脚本データベースにサムネイルとして掲載した。

【資料内訳】

国立国会図書館の大規模寄贈脚本の表紙撮影：4280冊

アニメ・特撮脚本の表紙撮影：1191冊

- ・コロナ禍での資料閲覧の困難な状況や、川崎市市民ミュージアムのような被災を想定し、今後は、利活用に向けた準備として脚本本文の公衆送信について、今後の方針を検討した。
- ・キーワードについて有識者委員会や作家を中心とした分科会においてにて検討を継続して行った。

⑥ 脚本家等の証言録取

■脚本家インタビュー：小山高生氏、藤川桂介氏、岸間信明氏、山本むつみ氏、富川元文氏

聞き手：脚本家・小林雄次氏、脚本家・新井まさみ氏、放送作家・さらだたまこ氏

■放送作家インタビュー（「放送作家の証言」への協力）

*土屋敏男氏（元日本テレビ・「進め電波少年！」制作）／聞き手：放送作家・鮫肌文殊氏

*鶴間政行氏／聞き手：放送作家・たむらようこ

*原すすむ氏／聞き手：放送作家・内村宏幸氏

⑦ 過去の音源の活用

日本放送作家協会が放送した広報番組（ラジオ日本）で収録した200名のインタビュー番組の音源のうち15名の書き起こしに協力校正に協力し、データの共有を行った。

5.2 目録の作成及びデジタル化に関する研究

①目録の作成及び「脚本データベース」の拡充、国際発信の研究

公開済「脚本データベース」 <http://db.nkac.or.jp/> について下記の拡充・検討を行った。

- ・収集した脚本の目録を入力し、「脚本データベース」に順次追加掲載した。
現在、93,957点の書誌データを掲載。また新規撮影した表紙画像を更新掲載した。
現在の画像掲載数82,030点、複本の表紙加増1,889点、合計83,919点が掲載されている。
- ・あらすじ追加を実施するほかサブジャンル項目を追加し、現在は特撮番組のみデータベースに反映されている。
- ・脚本所蔵情報および、以前より連携している所蔵館の書誌データ項目を精査し、書誌データの標準化を目指し「脚本データベース」目録項目の再検討を継続して行った。
- ・利活用に向けた準備として脚本本文の公衆送信について、著作権団体との協議により、今後の方針を再度検討した。
- ・異なるコンテンツ（アニメ、映画、音楽など）を連携検索する「JACCサーチ」へ、更新する書誌データを送信した。

②大学機関との連携研究

現在の連携大学機関：東京大学大学院情報学環、早稲田大学、日本大学芸術学部、法政大学、専修大学、国立情報学研究所、同志社大学。

- ・シニア世代への社会的活用として、港区の協力のもとシニアサロンにて回想法セミナーを2回実施した（10/7、3/7 於・港区赤坂総合支所研修室）。

③「ジャパンサーチ」との連携 <https://jpsearch.go.jp/>

- ・現在、国立国会図書館が中心として開発した「ジャパンサーチ」へ、JACCサーチを経由して「脚本」の書誌データを継続して提供。

5.3 所蔵館との連携体制の構築に向けた調査研究

①所蔵館の連絡研究

今年度は国立国会図書館への3万2千冊の大規模寄贈を主眼とし、有効な資料整理、燻蒸、排架作業の手順・方法を数回にわたり検討。国立国会図書館への寄贈作業を完了した。

②放送局との連携に向けた研究

脚本の所蔵主体として、各放送局のライブラリー・アーカイブスは看過できない。しかし、公的機関と異なり、公開を前提としていないため所蔵の把握が極めて難しい。各局のライブラリー部との連携準備として2019年度より放送局へのヒヤリング等を開始。コロナ後のヒヤリングに向け、日本民間放送連盟の協力により、連絡会の実施を目指し呼びかけを継続して行った。

5.4 委員会の開催、シンポジウム、その他イベント

①「脚本アーカイブズ検討委員会」の開催

- ・第1回：2022年11月1日（火）14:00～16:00
- ・第2回：2023年1月12日（木）14:00～16:00
- ・第3回：2022年3月15日（水）14:00～16:00

※参加団体：国立国会図書館、東京大学、日本大学、日本脚本家連盟、日本シナリオ作家協会、日本放送作家協会、NHK、日本民間放送連盟、放送番組センター、早稲田大学演劇博物館、国立映画アーカイブ、映像産業振興機構（VIPO）、日本動画協会、総務省、弁護士

② 作家団体の分科会の開催

国立国会図書館への寄贈作業に向け、寄贈者・著作権者へ送付する書面を各団体と個別に検討。作者、著作権継承者の送付先（シール）提供に協力していただいた。

※参加団体：日本脚本家連盟、日本シナリオ作家協会、日本放送作家協会

③シンポジウムの開催

■題名 『脚本は誰のもの？～文化を伝える放送脚本・台本を未来へつなぐために』

■日時 2023年3月12日（日） 13時半～17時 オンライン実施

■参加者 登録者：125名（登録285名）見逃し配信による視聴

■内容

○ご挨拶 13:30～13:45

- ・林保太（文化庁 文化戦略官 芸術文化支援室長）
- ・吉永元信（国立国会図書館館長）
- ・池端俊策（日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム代表理事）
- ・活動報告（事務局・石橋映里）

○第一部座談会

「台本から読み解く世相文化～懐かしいあの番組の制作秘話」

参加：奥山侑伸（放送作家）、鶴間政行（放送作家）

司会：内村宏幸（放送作家・日本放送作家協会理事長）

○パネルディスカッション

「脚本は誰のもの？」～デジタル脚本アーカイブズの未来～

池端俊策氏（脚本家）

佐伯俊道氏（脚本家・日本シナリオ作家協会理事長）

福井健策氏（弁護士・骨董通り法律事務所）

司会：吉見俊哉氏（東京大学大学院情報学環教授）

参加者 140名（登録285名） 見逃し配信による視聴は200名を超えた。

③若手制作者向けセミナーを開催した（2022年11月22日）

「テレビドラマ制作セミナー ～日本発オリジナルドラマの真髄～」

講師：大石静氏（脚本家）、貴島彩理氏（テレビ朝日プロデューサー）

モデレーター・さらだたまこ（日本放送作家協会監事）

④展示企画

映像を所蔵する放送番組センターと連携し、放送ライブラリー内の1コーナーに脚本15～20冊を展示。年4回（今年度は3回）を目標に展示替えを行い、脚本アーカイブズ活動の周知を図り、脚本への興味を喚起した。

① 2022年4月～6月 大河ドラマ『ドラマが描いた「人」と「時代」』

② 2022年7月～9月 2時間サスペンスドラマ『消えた・・・2時間サスペンスの謎』

③ 2022年10月～2023年3月 音楽歌番組『歌は世につれ世は歌につれ・・・』

第2章 脚本の所蔵調査および収集の実施

1. 収集作業について

今年度は国立国会図書館への移管準備がメインの作業となるため、脚本収集と寄贈受付は令和3年度2月に停止した。しかし、所蔵関連機関や過去の寄贈者などから脚本を送りたいという連絡をいくつか受けたため、国立国会図書館寄贈対象となる物から優先的に受け付けた。

3月末までに新規で寄贈を受けた脚本は784冊。今年度、国会図書館で横田弘行氏の手稿を受けていただけることになり、行き場の無かった他の手稿と合わせて放送番組では702点の手稿を国立国会図書館に寄贈することができた。そのほか303点については、1980年以後の番組であったり、シノプシスよりも細かい箱書きという構成用のメモであったり燻蒸作業に間に合わなかったりという理由で手元に残ることになった。

また、その作業の中で「製本された脚本以外」ということで未カウントだった資料を整理したところ国立映画アーカイブや演劇博物館にいく映画・演劇の分野の手稿も含め494点の資料が発見された。そのうち136点の資料が書籍執筆のための原稿や企画書などの理由で「行先未定資料」となっている。また、国会図書館納める点数を協議の上、32000冊以内と定めたため、書き込み有無や稿数が違う脚本を複本として抜いて数を調整し、複本の数が966冊に膨らんだ。

以下、今年度の寄贈者と寄贈された脚本、整理した手稿脚本・資料1278点の概要を紹介する。

2. 寄贈者別詳細

① 水谷龍二

日本脚本家連盟を通じて51冊をご寄贈いただいた。水谷氏は1952年、北海道生まれ。工業専門学校卒業後、上京。『コント55号のなんでそうなるの?』を視て脚本を書こうと思いたち、テレビ局に自作の台本を持ち込み、同番組で放送作家としてデビュー。1982年に『刑事ガモさんシリーズ』でドラマの脚本家デビュー。映画や舞台の脚本・演出、漫画原作などマルチに活動。今回寄贈いただいたのは、「東芝日曜劇場」枠の「五月の空」など6作品をはじめ「ドラマ30」枠の「愛がほしい」、「月曜ミステリー」枠の「退職刑事の事件帳」シリーズ(TBS)、「土曜ワイド劇場」枠の「おかしな刑事」シリーズ(テレビ朝日)など合わせて51冊。すべて国会図書館寄贈対象外の1990年以後の脚本であるが、1話完結の単発1時間ドラマの放送が皆無の現在では、単発ドラマ放送していた時代の「東芝日曜劇場」の脚本は貴重である。脚本コンクール応募者の勉強のためにも川崎市の施設の早期再開などで閲覧可能になることが望まれる。

② 三木鮎郎

1924年東京生れ。高等商船学校中退後、アメリカ軍の通訳として活動。1951年開催の「ジャズとシンフォニックタンゴの夕べ」と題されたコンサートで、トニー谷の代役で司会を担当。その後ジャズコンサートなどの音楽評論を初め、「スター千一夜」(フジテレビ)「TBS歌謡ベストテン」(TBS)、「11PM」(日本テレビ)などのテレビ番組の司会などで活躍し、「おとなの漫画」(フ

ジテレビ)、「光子の窓」(日本テレビ)では番組の構成を担当。エッセイや翻訳などの著作も手掛け1997年死去。息子で「笑点」の構成作家・三木陸郎氏より1951年9月から中部日本放送で放送された「冗談ウエスタン」の「西部冗談大捕物」1, 2回の手稿台本2冊を寄贈いただいた。ちなみにこの番組は小西六というカメラ会社の提供で、CMソングは実兄の作詞・作曲家、三木鶏郎が手掛けている。

③ 梅林貴久生

1932年、大阪府生まれ。作品記録としては1956年「マキノ奨励賞(山上伊太郎賞)」を受賞した映画脚本「巖流島前夜」が1959年に松竹で公開。その後、「新・座頭市」が1963年に、「兄弟仁義 逆縁の盃」が1968年に公開され。「第一回時代映画新人脚本賞」「民放社長賞」(三回)などを受賞。関西を拠点に活躍し、テレビドラマでは「京の川」(NHK)「銅たく」(関西テレビ)「名もなく貧しく美しく」(TBS)「花姉妹」「女系家族」(日本テレビ)などの脚本を執筆。日本放送作家協会関西支部幹事を務めた。野村證券を起ち上げた野村七徳の生涯を描いた「証券王」や西郷隆盛の終末の謎に迫る「西郷の首級」などの著作がある。2022年9月に御子息の巖氏から関西俳優協議会50周年記念事業 後継者育成事業公演「人生回り舞台」などの舞台脚本3冊と1962年放送の「タイガー劇場」の脚本を含む放送脚本6冊をご寄贈いただいた。

④ 津川泉

1949年茨城県生まれ。美学校卒業。1975年、76年と続けて「公募ラジオドラマ大賞」佳作入選。以後、NHKの「FMシアター」やTBSの「ラジオ図書館」などで多数のラジオドラマ脚本を執筆。日本放送作家協会常務理事。86年民放祭優秀賞受賞。89年ギャラクシー選奨、民放祭優秀賞、芸術選奨文部大臣新人賞受賞。津川氏からはこれまでも200冊近くのラジオドラマ脚本をご寄贈いただいているが、今回は東北放送で放送された「あさをの家」や多方向同時收音装置のためのNHK特集ラジオドラマ「オトツレ-あなたはどこにいますか?」の脚本やTBS・TBCラジオの企画書など4冊ご寄贈いただいた。それ以外にも「音の本棚」や「スーパーステーション」「ラジオ図書館」「私の文庫本」などの1980~90年代のラジオドラマのカセットテープ音源54本と「夜のドラマハウス」の書籍2冊を合わせて寄贈いただいた。

⑤ 天野隆子

風俗考証家。昨年度「おしん」や「いだてん」をはじめ1980年以後の主にNHK連続テレビ小説(朝ドラ)脚本を段ボール箱55箱、未整理のため正確な数は分からないが2000冊を超えると思われる脚本をご寄贈いただいた。今年度はまだ家に残っていたという「おしん」「ハイカラさん」「あぐり」などのテレビドラマ台本78冊をご寄贈いただいた。

⑥ 辻真先

1932年、愛知県生まれ。名古屋大学卒業後、1954年NHKに入局。1962年に退局後、脚本家と

して特撮・アニメ番組を中心に執筆。辻氏の脚本は放送ライブラリー経由ですでに 800 冊ほど寄贈いただいているが、12 月にご本人から連絡をいただき手元にあった脚本をご寄贈いただいた。内容は、NHK 在局時に担当した 1957 年放送のドキュメンタリー番組「ガード下の讚美歌」、局員でありながら「津治真佐喜」のペンネームで脚色したドラマ「乱吉君と遺産過多症（仮題）」、脚本を担当した「もーれつア太郎」「ゲゲゲの鬼太郎」「魔女っ子チックル」などのアニメ番組や、ご自身が出演したラジオ番組「アニメ・ヒーロー 20 年」など併せて 30 冊。1980 年以前のアニメ以外の脚本 4 冊は 1 月の燻蒸作業を経て国立国会図書館に所蔵されることとなった。

上記の他に川崎市市民ミュージアムで所蔵していた映画台本 610 冊が送られてきたため、国立映画アーカイブに寄贈を打診したが、映倫審査台本で既に同じ物を所蔵しているということで受け入れはできないという返答だった。住友倉庫にて保管しているが、今後受け入れてもらえる機関を探し速やかに移管したい。

横田弘行氏執筆の NHK で放送された「次郎物語」「愛の一家」「オロップ牧場の仲間たち」などのテレビドラマ手稿 371 点を国立国会図書館で受け入れてもらえることが決まったことで、過去に印刷された脚本以外に寄贈を受けていた資料を整理していた際に発見された手稿や構成メモの中でも重要と思われる資料も国会図書館への寄贈対象とすることにし、整理作業を進めた。その過程で新たに見つけた資料も合せて紹介する。

⑦ 内村直哉

「東芝日曜劇場 走れ無外！」などの脚本手稿 11 点の他に、有名なラジオドラマ「えり子とともに」執筆にあたっての「4 月 30 日「えりこ」打合せ会事項」「根本の問題」「7 月分あらすじ」などの創作メモも発見されたので手稿資料として国立国会図書館に寄贈。また、ラジオドラマ「マラソン」の脚本は既に寄贈済だが、42.195 キロのスタートからラストの何キロ地点で起こることとその時の主人公の心情をメモした全体の流れがわかる構成表も発見したのでドラマ音源カセットテープとともに寄贈。

⑧ 椎名利夫

映画脚本の手稿とともに発見された 1962 年日本テレビで放送された佐藤愛子原作の「戦いすんで日が暮れて」や「地方記者」などのドラマ手稿 4 点を国会図書館に寄贈。

⑨ 横光晁

ラジオ構成番組「荒砂ユキの夜の味」の 31 話分の手稿台本が国立国会図書館に寄贈され、燻蒸作業後にテレビドラマ「愛の迷路」を含む放送番組手稿脚本、企画書など 41 点が発見された。1980 年以前の手稿脚本も含まれるが「行先未定資料」となっている。

⑩ 茂木草介

1970年に放送された有吉佐和子原作のテレビドラマ「芝桜」7話分の手稿脚本をはじめ舞台脚本や小説の手稿40点を発見。うち14点ずつ国立国会図書館と、早稲田大学演劇博物館に寄贈。題名不明原稿や小説原稿が「行先未定資料」となっている。

⑪ 津田幸夫

手稿脚本として全体が読める形の資料はテレビ時代劇「あばれ八州御用旅 決斗・砂塵の宿」、舞台「毎日香物語」「浪花人情花のぬくもり」だけであるが、それ以外に手書きの企画案・人物表、箱割が200点以上発見された。ドラマ1話を構成するにあたり、その話の登場人物の動きをシーンごとに箇条書きにしたメモを「箱書き」と呼ぶが、津田氏の箱書きは原稿用紙一枚で細かい動きやセリフがびっしり書き込まれているのが特徴的である。脚本を勉強する人にとっては構成を学ぶうえで大いに参考になると思われるが、点数が多く今回の寄贈には整理が間に合わなかったことと文字が細かく一般の展示には向かないことから国会図書館には寄贈されなかった。今後デジタル化等、閲覧できる方法を探っていきたい。

⑫ 大野靖子

テレビドラマ「ザ・商社」「蒼き狼」「特捜最前線」などの手稿脚本11点が国会図書館に「にいちゃん」と題名未記入の手稿脚本2点を早稲田大学演劇博物館に寄贈。ほかにも児童向けの小説と思われる手稿があり「行先未定資料」となっている。

⑬ 曾我部博士

テレビ東京「演歌の花道」手稿脚本など10点を国会図書館に寄贈。「演歌の花道」は岡晴夫、春日八郎、八代亜紀、五木ひろしがメインゲストの回のもの。歌番組以外にもオリンピックやアポロ打ち上げの記念番組の構成も担当しており、それらの手稿ではない脚本も併せて今回国会図書館に寄贈された。

⑭ 江上照彦

2015年に寄贈いただいた脚本とともに1959年に放送され第14回芸術祭奨励賞受賞したテレビドラマ「ある町のある出来事」と同じ原作者・レジナルド・ローズの「12人の怒れる男たち」を含めた6点の手稿を国会図書館に寄贈。

⑮ 市川森一

1967年に放送された「怪獣ブースカ」の最終話「さようならブースカ」の手稿脚本1点。そのほか、スケジュール帳やB5判サイズのノートに書かれた創作メモ「胡椒息子」「彦佐と一心太助」「マキちゃん日記」などが国立国会図書館に寄贈された。

3. 国立国会図書館への大規模寄贈について

①はじめに(第1期から第2期にかけての作業の流れ)

国立国会図書館への第1期大規模寄贈は、2011年5月18日に文化庁と国立国会図書館との協定「我が国の貴重な資料の次世代への確実な継承に関する協定」の締結を踏まえ、2013年3月に実施された。まず、脚本アーカイブズの前身である日本放送作家協会脚本アーカイブズ準備委員会が収集した脚本約4万冊のうち、1980年以前の放送番組の脚本約2万7千冊を足立区立図書館から国立国会図書館へ搬入。寄贈した資料の公開に向け、寄贈者への所有権移転確認、寄贈者以外の著作者への連絡などの権利処理(オプトアウトの寄贈受付)を行い、同年7月～8月にかけて同館地下6階書庫内において脚本資料の再整理と排架作業を行った。再整理を行ったのはOPP袋に入れていた資料を中性紙封筒に入れ替えることが求められたためであり、資料番号印字シールを添付した中性紙封筒に入れ替える際には資料をデータと照合する作業も合わせて実施した。夏休み中の時期でもあったので、文化財資料の保存・修復を学ぶ学生の協力を得ることができたが、日替わりで交替する学生への指示連絡が必要なことと、飲水不可の環境下での作業でこまめな水分補給のための休憩が必要な事などもあり、作業終了に至るまで40日の日数がかかった。作業の後、同館収集書誌部による蔵書印押印並びに資料確認作業を経て、2014年4月に資料の公開が始まった。

2011～2012年にかけて脚本家や脚本家遺族、制作者団体、文学館、図書館等を実施したアンケートでは収集可能な脚本は約13万冊と算出されていたが、第1期大規模寄贈の段階では、川崎市市民ミュージアムに寄贈された1981年以降の放送脚本や国立映画アーカイブに寄贈された映画脚本、早稲田大学坪内博士記念演劇博物館に寄贈された演劇脚本等を含めて4万冊しか収集できていない状況であった。しかし、テレビ放送草創期に活躍した脚本家が身辺整理する時期に差し掛かっていることや、国立国会図書館などで脚本が所蔵・公開されているニュースが報じられたことなどにより、第1期大規模寄贈後も脚本アーカイブズへの寄贈申し込みが途絶えることはなく、協定締結を機に設置された有識者会議「脚本アーカイブズ検討委員会」(座長・吉見俊哉氏)では、映像資料が残っていない1980年代以前の脚本を中心とした収集活動の継続と、国立国会図書館での再度受け入れの必要性について何度も討議が行われた。その結果、2015年度から積極的に寄贈の呼掛けを始めることとなり、年度によっては1万冊を超える寄贈があり、2019年度には、第1期寄贈分と放送以外の脚本を含めて収集した脚本の総数が10万冊を超えた。この成果を受けて国立国会図書館でも受け入れに向けての調整が進み2022年度に3万冊を上限に第2期の大規模寄贈を受けることが決定した。

2021年10月より国立国会図書館への受け入れ検討を具体的に進め、寄贈できる資料は全て燻蒸を終えた物であること、不要な資料は事前に抜き取ること、搬入後の排架作業はアーカイブズが行うことなどの条件の擦り合わせを行った。

2022年度は寄贈作業に注力できるよう、前年度の2022年2月をもって寄贈受付を停止して寄贈された書誌情報のデータ入力作業に注力するとともに上記の条件を満たすべく燻蒸作業の手配、寄

贈脚本の確定、抜き取る複本の選定などの準備作業を開始した。2014年以後に寄贈を受けた1980年以前の放送台本は国立国会図書館への寄贈を見据えて予め資料番号をつけた中性紙封筒に入れて番号順に段ボール箱に封入のうえ外部倉庫に保管していたため、箱を開ければそのまま排架できる状態にしていた。但し、合本などサイズの大きな資料が中性紙袋に入っていない資料もあったので、該当する資料を倉庫から取り寄せて袋を入れ替えた。また、川崎市市民ミュージアムの台風被災や新型コロナの影響などで寄贈脚本を分散して書誌情報入力作業を行ったため、収集作業の後半に寄贈を受けた資料は資料番号と箱番号の並びが1部揃わない状態となっていたので、箱番号と資料番号の相対表を作成し、並びの乱れが著しい箇所については並べ替え作業を行った。当初は夏の気温の高い時期に一括で500箱の燻蒸作業を終え、こぼれた100箱を追加で燻蒸し国立国会図書館に搬入の予定だったが、場所の確保ができなかったため、小さい窯で3回に分けて実施することになった。窯が小さくなった分、外気温の影響を受けにくくなり夏の実施に拘らなくてもよくなったので、1回目を10月末、2回目を11月末、平箱に入れた手稿を中心に年明けの1月中旬に3回目を実施することとなった。今まで寄贈先の決まらなかった手稿資料も受け入れてもらえることになり寄贈脚本の上限は手稿資料を含め3万2千冊という条件で未整理資料の中から直筆原稿脚本を中心に選別して数を調整。また、第1回の燻蒸作業の間に第1期と同様に寄贈者以外の著作者への連絡などの権利処理(オプトアウトの寄贈受付)を著作権管理団体の協力のもとに実施した。

燻蒸を終えた資料を国立国会図書館新館の地下6階書庫内の空きスペースに搬入してもらう際には、箱番号順に台車に乗せての配置を依頼。第1期大規模寄贈の際には、学生アルバイトを含め1日6名以上で排架作業を行ったが、今回は夏休みの時期ではないこと、準備段階で順番に排架するだけの状態に整えていたことから1日4～3名で作業を実施。各回、7日程度の作業日数を見込んで控え室や架台を用意していただいたが1回目と2回目は見込みの半分以下の2～3日で1万5千冊以上の脚本の排架・複本の抜き取り・並び順と袋の破れ等の確認作業を終えることができた。

3回目の作業は製本された脚本以外の直筆原稿(手稿)脚本や、製本脚本の規格から外れる大判の構成台本や企画書が中心だったため、棚に資料を立てて並べることができない資料の排架方法を音楽映像資料課に確認しながら行った。課内で排架方法を検討いただいた結果、書架の間に中性紙平箱を並べられるスペースと、資料を入れる中性紙平箱50箱を提供いただけることになり、箱内の資料が外から識別できるようラベルを作成して貼付した。3回目の作業は排架資料の数が少なかったものの、2回目までの排架済資料のうち保存袋の大きさがあっていないものや破れたものを入れ替える作業も行ったため4日を要した。

上記の流れで第1期大規模寄贈から約10年の準備期間をかけて、2022年度中に1980年以前の放送脚本3万1995冊の国立国会図書館への寄贈作業は完了し、同館での確認作業の終了後の2023年度中に公開の運びとなった。個々の作業概要について以下報告するに先立ち、長きにわたり活動をご支援いただいた文化庁や国立国会図書館、著作権管理団体、国立映画アーカイブ、早稲田大学坪内博士記念演劇博物館、川崎市市民ミュージアム等の関連機関、放送局、大学等研究機関等の関係者の皆様に厚く謝意を表したい。

② 作業概要

2022年度内（2023年3月末まで）に脚本および資料の寄贈完了に向けた作業を実施した。
31,995点の資料について排架完了。寄贈完了手続きは年度末になる予定。

③ 燻蒸作業について

搬入搬出：株式会社ニチマイ

燻蒸作業：関東港業株式会社

【第一回作業】250箱 終了

- ・10月31日 倉庫より搬出⇒燻蒸処理
- ・11月17日 国会図書館への搬入
- ・11月21日～22日 排架作業

【第二回作業】250箱 終了

- ・11月28日 倉庫より搬出⇒燻蒸処理
- ・12月13日 国会図書館への搬入
- ・12月14日、16日、19日 排架作業および中性紙封筒の一部差替え作業



【第三回作業】残り100箱（中性紙平箱約40箱含む）

- ・表紙撮影（生原稿は表紙がないものが多いため未撮影）
- ・1月16日 事務所より搬出⇒燻蒸処理
- ・2月1日 国会図書館への搬入
- ・2月2日～9日 排架作業



③ 寄贈者、著作者への連絡

（i）寄贈者への連絡

令和4(2022)年のエントリーシート送付：27名

著作権者：15名

※第二期寄贈者（2013年～2022年）は88名、うち著作権者は46名。

（ii）著作者への連絡

脚本の作家団体所属メンバーへの連絡文をリストと共に送付済み

送付：378名（うち12名が不達）

連絡：19名。うち寄贈希望12名。

【燻蒸および運搬作業報告】

報告：株式会社ニチマイ

1. 業務概要

1.1 件名

脚本資料の燻蒸及び運送等作業

1.2 作業者

株式会社 ニチマイ

〒134-0083 東京都江戸川区中葛西 4-19-14

TEL 03-6808-3170 FAX 03-5659-1150

1.3 作業期間及び処理数量

1.3.1 第1回燻蒸作業

- 1) 燻蒸作業：令和4年10月31日～11月17日
- 2) 国立国会図書館搬入作業：令和4年11月17日
- 3) 数量：250箱

1.3.2 第2回燻蒸作業

- 1) 燻蒸作業：令和4年11月28日～12月13日
- 2) 国立国会図書館搬入作業：令和4年12月13日
- 3) 数量：250箱

1.3.3 第3回燻蒸作業

- 1) 燻蒸作業：令和5年1月19日～2月1日
- 2) 国立国会図書館搬入作業：令和5年2月1日
- 3) 数量：100箱

2. 工程ごとの作業内容

2.1 燻蒸作業場所への搬入作業

2.1.1 燻蒸作業対象資料保管場所からの搬出及び運搬車両への積み込み作業

- 1) 搬出対象となる資料が梱包された箱の数量確認及び箱に破損等発生していないか状況の確認を行った。
- 2) 運搬車両へ1列5箱になるように積み込みを行った。荷崩れ防止のため養生材等で箱全体への固定も併せて行った。
- 3) 使用した車両は2tコンテナ車両2台、1tワゴン車1台。
- 4) 積み込み終了時に積載漏れ防止のために再度積載箱数の確認を行った。
- 5) 運搬車両にて資料保管場所から燻蒸作業場所へ燻蒸対象資料を搬送した。

2.1.2 燻蒸作業対象資料の運搬車両からの荷下ろし及び燻蒸作業場所への搬入作業

- 1) 荷下ろし前に搬送中の積載箱紛失等が発生していないか運搬車両の積載箱数の確認を行った。

- 2) 箱に貼付された管理番号毎に区分された燻蒸作業場所へ荷下ろしを行った。
- 3) 運搬車両から荷下ろしの際に転倒等の事故防止のため、1度の荷下ろしは1箱～2箱程度とした。
- 4) 燻蒸作業場所への荷下ろしが終了した段階で、荷下ろし漏れの防止のために燻蒸作業場所の箱数及び運搬車両の荷台内部の確認を行った。

2.2. 燻蒸作業

2.2.1 燻蒸作業状況

1) 燻蒸作業概要

- 施工方法：被覆燻蒸施工
- 使用薬剤：殺虫殺菌燻蒸剤 エキヒューム SJ
- 投薬方法：間熱気化器を使用した完全ガス化投薬
- 燻蒸時間：36 時間

2) 燻蒸作業結果について

- 公益財団法人文化財虫菌害研究所により殺虫処理効果判定を行った。
- 殺虫処理後のテストサンプルを温度 27°C、湿度 70～80%R.H.の環境条件下で約 1 ヶ月保持し成虫・蛹・幼虫の生存はなく、虫卵の孵化も認められなかった。
- 殺虫殺卵効果は 100%となっている

2.3 国立国会図書館への搬入作業

2.3.1 国立国会図書館への搬入作業に使用する資料搬入用台車の清掃

- 1) 資料搬入用台車について中性洗剤を用いて洗浄を行った。
- 2) 台車の荷台部分については除菌シートによりふき取りを行った。

2.3.2 燻蒸作業場所から燻蒸対象資料の搬出及び運搬車両への積み込み作業

- 1) 搬出対象となる資料が梱包された箱の数量確認及び箱に破損等発生していないか状況の確認を行った。
- 2) 運搬車両へ箱に貼付された管理番号を基に 1 列 5 箱になるように積み込みを行った。荷崩れ防止のため養生材等で箱全体への固定も併せて行った。
- 3) 使用した車両は 2t コンテナ車両 2 台、1t ワゴン車 1 台。
- 4) 積み込み終了時に積載漏れ防止のために再度積載箱数の確認を行った。
- 5) 運搬車両にて燻蒸作業場所から国立国会図書館へ燻蒸対象資料を搬送した。

2.3.3 燻蒸作業対象資料の運搬車両からの荷下ろし及び国立国会図書館への搬入作業

- 1) 荷下ろしを行う前に以下の個所について養生材を用いて養生を行った。

- ①国立国会図書館の正面入り口から燻蒸済み資料搬入先の地下6階書庫につながるエレベーターまでの経路
 - ②エレベーター内の養生
 - ③国立国会図書館から提供を受けた汚れ取り粘着シートをエレベーター入口付近に設置した。
- 2) 荷下ろし前に搬送中の積載箱紛失等が発生していないか運搬車両の積載箱数の確認を行った。
 - 3) 箱に貼付された管理番号を基に資料搬入用台車に1台当たり4箱積載となるように事前に割り付けを行ったリストを基に荷下ろしを行った。排架作業のために管理番号の若い番号が上になるように積載した。
 - 4) 運搬車両から荷下ろしの際は管理番号を整えるため、1度の荷下ろしは1箱ずつ行った。
 - 5) 資料搬入用台車には管理番号を付与して、番号の若い台車から箱の積載を行った。
 - 6) 運搬車両内の荷下ろしが終了した段階で、荷下ろし漏れの防止のため運搬車両の荷台内部の確認を行った。
 - 7) 搬入に際しては用意した国立国会図書館内作業用の履物を使用した。
 - 8) 地下6階の指定された場所に、資料搬入用台車に貼付された管理番号を基に若い番号から順番に搬入を行った。
 - 9) 全ての資料搬入用台車の搬入が完了した段階で、箱に貼付された管理番号と搬入用台車に貼付された管理番号の確認を行い、積載漏れ積載間違いのないことを確認した。
 - 10) 搬入作業が終了した段階で養生材を撤去し、国立国会図書館より提供を受けた汚れ取り粘着シートを返却し作業終了とした。

各作業工程の記録写真

【1】燻蒸作業場所への搬入作業		
項番	作業内容	記録写真
1	運搬車両への積み込み作業	

2	積み込み状況	
---	--------	------------------------------------------------------------------------------------

【2】 燻蒸作業

項番	作業内容	記録写真
----	------	------

1	ビニール被覆状況	
---	----------	-------------------------------------------------------------------------------------

2	資料配置状況	
---	--------	--------------------------------------------------------------------------------------

3	供試虫、供試菌設置状況	
4	完全ガス化投薬	

【3】 国立国会図書館への搬入作業		
項番	作業内容	記録写真
1	資料搬入用台車の清掃	

2	資料搬入用台車への管理番号付番	
3	養生状況	
4	搬入作業	

第3章 放送脚本資料等電子化作業の実施概要について

① 国立国会図書館寄贈分の表紙撮影

国会図書館への寄贈を主な目的とし、1980年以前に放送された脚本を優先し表紙撮影を行った。
ファイル数：4,280点（合本614点、単冊3,666点）



② アニメ・特撮脚本「表紙」撮影

国立国会図書館へ寄贈分を特撮を含み表紙撮影を行った。
ファイル数 1,191点（すべて単冊）



放送脚本資料の電子化作業の実施報告

報告：株式会社ニチマイ

(1) 作業内容

法政大学多摩キャンパス等より移送された放送脚本資料の表紙及び本文部分をスキャンし、画像データを作製。スキャン作業等全作業工程を弊社作業場所にて実施した。

(2) 作業工程について

- 1) 作業分の資料と資料リストとの照合を含む、スキャン作業前整理作業
- 2) スキャン作業
- 3) 一次画像検査作業（資料と画像の照合によるスキャン漏れの検査）
- 4) 二次画像検査作業（画質、傾き等の画像検査）
- 5) 画像ファイル変換作業
- 6) 最終検査及び納品メディアへの格納作業

(3) 電子化仕様

- 1) 解像度：400dpi 放送脚本の表紙と本文
- 2) 認識サイズ：原寸認識
- 3) 階調特性：24 ビットフルカラー
- 4) データ形式
 - ①JPEG2000
 - ②PDF
- 5) 格納メディア
HDD

(4) 使用スキャナー

以下のいずれかのスキャナーを使用した。

※機器の画像及び仕様は取り扱い販売店等の HP より抜粋しております。

- 1) コニカミノルタ社製 EPICWIN5000CMKII Lab ×1台～2台（弊社所有機器）



スキャナー仕様

出力解像度	200、240、300、400、600（光学解像度 400dpi）
スキャンモード	24bit カラー、8bit グレyscale、2 値
原稿サイズ	330mm×460mm
サイズ	W674mm×D787mm×H918mm
生産国、メーカー	日本 コニカミノルタビジネスソリューションズ株式会社

2) i2s 社製 Copibook OS ×1 台～2 台（弊社所有機器）



スキャナー仕様

出力解像度	350dpi～600dpi（光学解像度 400dpi）
スキャンモード	24bit カラー、8bit グレyscale、2 値
原稿サイズ	635mm×450mm
サイズ	10002mm×740mm×1364mm
生産国、メーカー	フランス i2s 社

(5) 作業実施時期・場所等

1) 全作業期間等

①全作業期間：令和 4 年 7 月 22 日～令和 5 年 3 月 10 日

②作業時間：9 時～17 時

2) 作業場所

株式会社ニチマイ 本社作業場所

3) 作業体制

①スキャニング作業前整理作業：1 名～3 名

②スキャニング作業：1 名～2 名（文書情報管理士 1 級）

③一次画像検査作業：1 名～2 名

④二次画像検査作業：1 名～2 名

⑤ファイル変換、成果物作製等作業 1 名～2 名（2 名の場合内 文書情報管理士 1 級 1 名）

4) 作業数量

①表紙部分のスキャニング作業：4,280 ファイル

【2】 アニメ・特撮脚本資料の表紙撮影

(1) 作業内容

法政大学多摩キャンパス等より移送された放送脚本資料の表紙及び本文部分をスキャニングし、画像データを作製。スキャニング作業等全作業工程を弊社作業場所にて実施した。

(2) 作業工程について

- 1) 作業分の資料と資料リストとの照合を含む、スキャニング作業前整理作業
- 2) スキャニング作業
- 3) 一次画像検査作業（資料と画像の照合によるスキャニング漏れの検査）
- 4) 二次画像検査作業（画質、傾き等の画像検査）
- 5) 画像ファイル変換作業
- 6) 最終検査及び納品メディアへの格納作業

(3) 電子化仕様（前述【1】放送脚本資料表紙撮影と同様）

(4) 使用スキャナー（前述【1】放送資料表紙撮影と同様）

※使用台数は1台

(5) 作業実施時期・場所等

1) 全作業期間等

①全作業期間：令和4年7月11日～令和4年8月26日

②作業時間：9時～17時

2) 作業場所

株式会社ニチマイ 本社作業場所

3) 作業体制

①スキャニング作業前整理作業：1名

②スキャニング作業：1名（文書情報管理士1級）

③一次画像検査作業：1名

④二次画像検査作業：1名

⑤ファイル変換、成果物作製等作業 2名（内 文書情報管理士1級1名）

4) 作業数量

表紙部分のスキャニング作業：1,191ファイル

【3】その他

1) 資料状態について

資料の一部については劣化しているものがあった。

2) 資料取扱いについて

封筒からの出し入れ時に、封筒に資料が引っ掛かる等で資料が傷まないように留意して作業を行った。

3) 資料の管理について

資料点数の管理・・・作業前に資料確認をおこなって資料点数管理を行った。

資料と封筒の管理・・・脚本資料は封筒にはっている状態であり、スキャニング作業に当たり封筒からの資料の出し入れは1点1点ずつ行った。脚本資料本体には管理番号等ラベルが貼付されない
ので、封筒への戻し間違い等起こらないように実施した。

4) 資料形態等

・合冊製本されている資料について、脚本の表紙のみスキャニングを行ったので問題なかったが、合本製本の綴じがきつく本文の判読性に問題が生じる可能性がある場合には、本文をスキャニングする場合には解体等の解決策の検討が必要と考える。

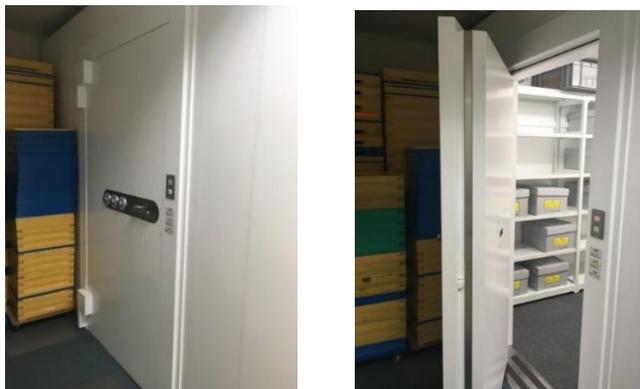
・資料管理と作業効率上、リストと保管されている資料の並びが今回のように一致していることが重要と考える。

(資料リストと保管されている資料の並びが一致していない作業前の読み合わせ等が困難になり資料管理が煩雑になってしまい、作業進捗にも影響が出てくる恐れがある。)

5) 資料保管場所

弊社に持ち込まれた脚本資料は以下弊社セキュリティ体制のもと弊社耐火保管庫にて保管。

①耐火保管庫 外部及び内部画像



②資料保管場所他セキュリティについて

弊社本社への入館及び耐火書庫設置場所及び各作業場所へはセコム入退室カードシステムにより関係者以外は入室できない体制を整えている。

また、耐火保管庫設置場所及び各作業場所への入退室について日時単位で個人特定が可能な仕組みとなっている。

第4章 目録の作成及びデータベース公開について

1. 目録の作成及び「脚本データベース」の拡充、データの標準化策定

1.1 現在の書誌採取の基礎項目は下記の通り

項目	記入例	Web 公開
管理番号	1 資料ごとにナンバリング。外袋のシールに表示される。 NDL001-0001（国立国会図書館へ寄贈）など	○
旧管理番号	入力時に一時的に付与。分類後に新しい管理番号を付与。	×
合本	合本製本された脚本にマーク	○
分類	台本または資料、原稿	○
メディア	ラジオ、テレビ、映画、舞台、レコード・CD・カセット、 ビデオ・DVD、web 配信、ゲームなど発表された媒体	○
ジャンル	ドラマ、構成、アニメ、映画、海外ドラマ、海外構成、人 形劇、演劇、海外アニメ、海外映画、CM など	○
サブジャンル	ドラマ部門に、ドラマ（特撮）を追加	○
枠名	連続テレビ小説、大河ドラマ、金曜劇場、火曜サスペンス劇 場、東芝日曜劇場など、固定された放送時間枠の名称	○
シリーズ名	シリーズ・街、ドラマ・人間模様、6月の花嫁シリーズなど、 内容に共通性のある番組群の名称。	○
タイトル	番組の表題	○
タイトルカナ	番組表題のカナ書き	○
タイトル英語化	ローマ字で記載するにとどまり、翻訳には至っていない	○
サブタイトル	副題。各回につけられた題名。	○
台本バージョン	初稿、二稿、決定稿、改訂稿など脚本・台本の稿数。	○
劣化	紙の酸化など劣化が激しいものに○	×
状態	表紙の外れ、紙の破れ、ホチキスの外れ、コピー台本、規格 外の大きさであるなど普通ではない状態の場合に記載	×
放送回	台本に記載している放送回	○
放送日	台本に記載された放送日	○
放送局	放送局	○
制作	放送局の他、制作会社など	○
作家名	脚本家、放送作家名	○
原作者	台本に原作、原案の記載があるもの	○
原作名	原作題名	○
出演	H28 年まで冒頭の 3 名記載。H29 年より全員記入	○
作品情報・備考	提供会社名、芸術祭などの受賞歴や、タイトル・サブタイト ルが実際の放送と異なっている等、項目外の作品情報	×
寄贈元/属性	寄贈者／寄贈者が作家、制作者、会社などを記載	×
寄贈日	受け入れ日	×
権利処理	寄贈確認の書類送付の有無	×
個人情報	個人情報の有無、被覆作業の有無	×
演出/監督	演出、ディレクター、監督等	○
プロデューサー	プロデューサー、制作、企画	○

音楽	劇伴の作曲者、音楽監督等	○
美術・デザイン	美術・デザイン担当者。美術関連スタッフ（大道具・小道具等）はスタッフ備考に記載	○
考証・指導	時代考証、殺陣指導等	○
スタッフ備考	上記以外のスタッフをすべて記載	○
主題歌	台本に記載されたもののみ	○
尺（分）	放送された時間数（30分、2時間等）	○
放送時間	放送時間帯の表示（8:15～8:30等）	○
あらすじ	台本に記載のあるものは転記。 その他、ライターに依頼し600字～1000字程度作成	○

【脚本データベースに掲載中の書誌分布】（データベース掲載 93,957件について）

【メディア別】

メディア	冊数
テレビ	73,181
ラジオ	16,013
映画	2,480
舞台	1,947
ビデオ・DVD	135
レコード・CD・カセット	130
不明	28
インターネット	16
ゲーム	11
館内	10
テレビ・ラジオ	6
合計	93,957

【年代別】

年代別	冊数
1920年代	1
1930年代	15
1940年代	126
1950年代	7,538
1960年代	18,965
1970年代	17,080
1980年代	14,041
1990年代	9,654
2000年代	7,236
2010年代	2,337
2020年代	72
不明	16,892
合計	93,957

【ジャンル別】

ジャンル	冊数
ドラマ	54,383
構成	21,312
アニメ	9,221
映画	2,487
海外ドラマ	1,453
海外構成	1,267
演劇	1,240
人形劇	748
ドラマ（特撮）	693
イベント	440
歌舞伎	396
海外アニメ	134
海外映画	66
時代劇	65
CM	20
不明	17
ゲーム	14
雑誌・図書	1
合計	93,957

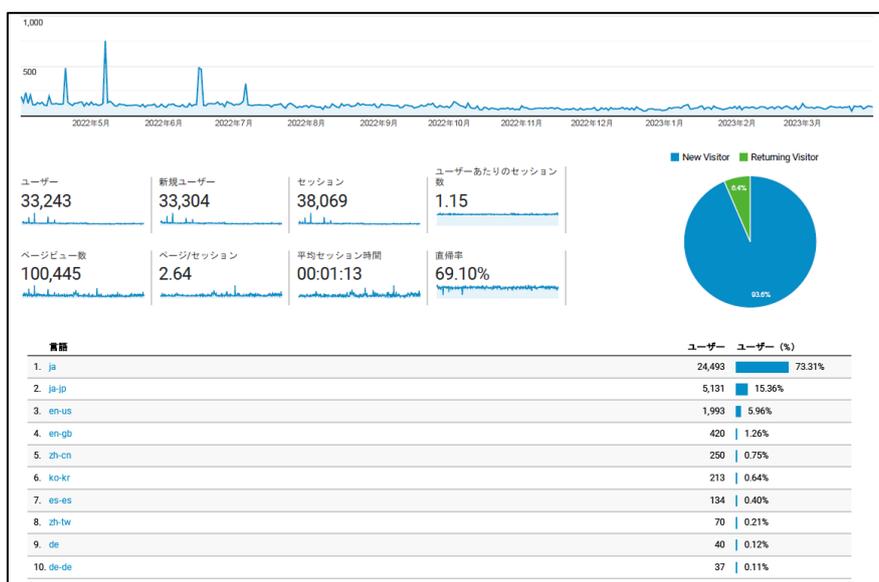
1.2 データベースの利用状況

公開中の「脚本データベース」の2022年4月1日から2023年3月31日までの利用数は、ユーザー数33,243（一日平均91名）、ページビュー100,445件。英語利用者が5.96%（図1）。国別では日本国内に次いで、アメリカ、中国、韓国、ペルー、インドネシア、カナダ、イギリス、ブラジルと続き、アジア圏のほか多様な国からのアクセスがみられた（図2）。

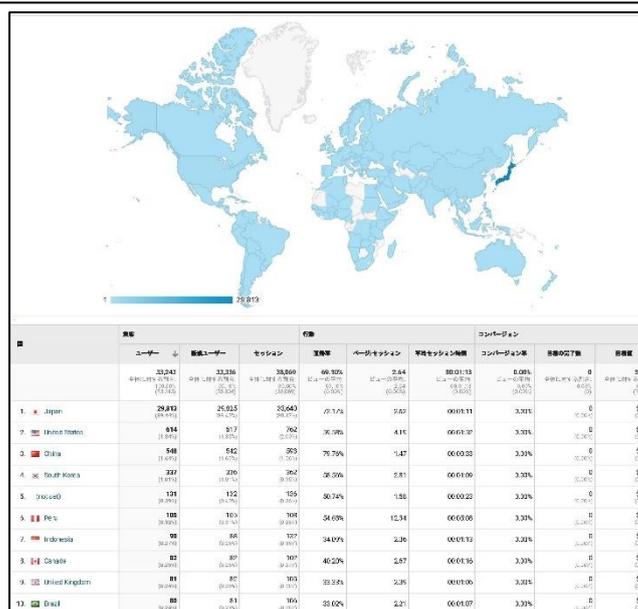
ユーザーの使用デバイスは、モバイルが60.1%、デスクトップ35.8%、タブレット4.1%。モバイル版のリリースをした昨年度の利用率51.6%に比較し、モバイルやタブレットからの利用が増加傾向にあるが直帰率も高い。

ユーザーの属性については、年齢別には35-44歳：22.88%、25-34歳：20.44%、45-54歳：17.81%、18-24歳：14.66%、55-64歳：12.62%、65歳以上：11.60%。性別では男性利用者の方が多く60.14%、女性は39.86%となっている。

【図1】



【図2】



第5章 大学機関との連携研究

1. 大学連携研究

1.1 共同研究の概要

連携大学機関として前年度に引き続き、東京大学大学院情報学環、早稲田大学、日本大学芸術学部、法政大学、専修大学、同志社大学、国立情報学研究所の研究者と情報共有を行い、「脚本アーカイブズ」の利用方法について、教育利用やシニアへの社会的利用を中心に検討を行った。

作業場所としては、法政大学多摩キャンパス内に研究場所の利用期限が2023年3月末までとなることから、国立国会図書館への資料寄贈移管が終わった後、約800箱の脚本や資料の再仕分けを行った。

新たに発見された演劇や映画のパンフレットを精査し、演劇は早稲田大学坪内博士記念演劇博物館へ寄贈、映画は国立映画アーカイブへ寄贈移管した。複本については引き続き国際日本文化研究センターへ分割して寄贈した。そのほか、1981年以降に放送された放送番組の脚本資料は外部倉庫に移管した。

1.2 データベースの改修を検討

公開中の脚本データベースは、寄贈された資料を記録する検索システム機能のみを有し、作品や所蔵先などのテーブルを別に設けるデータベース機能はない。書誌入力エクセルに記載する形で行われ、統合・整理して流し込む方法を採用している。

今後は著作権者の許諾を受けた脚本について、国立国会図書館と連携しつつ、本文を公開する方法を検討したい。

1.3 オーラルヒストリー録取

① 脚本家インタビュー

【録取実績】小山高生氏、藤川桂介氏、岸間信明氏、山本むつみ氏、富川元文氏

聞き手：脚本家・小林雄次氏、脚本家・新井まさみ氏、放送作家・さらだたまこ氏

② 放送作家インタビュー（「放送作家の証言」への協力）

日本放送作家協会の有志研究チームが取り組む放送作家へのインタビューについて資料提供および動画データの連携協力を行った。次年度も継続して録取に協力し、脚本データベースへの連携を行う。

【録取実績】①土屋敏男氏（元日本テレビ・「進め電波少年！」シリーズのプロデューサー）／聞き手：放送作家・鮫肌文殊氏②鶴間政行氏／聞き手：放送作家・たむらようこ③原すすむ氏／聞き手：放送作家・内村宏幸氏

③ 過去の音源の活用

日本放送作家協会が放送した広報番組（ラジオ日本）で収録した200名のインタビュー番組の音源のうち15名の書き起こしに協力校正に協力し、データの共有を行った。

第6章 所蔵館との連携体制の構築に向けた調査研究

1. 所蔵関係について

1.1 目録の統合の試行

脚本所蔵情報および、以前より連携している所蔵館の書誌データ項目を精査し、書誌データの標準化を目指し「脚本データベース」目録項目の再検討を継続して行った。

1.2 連携研究

①所蔵館の連絡研究

下記の所蔵館へのヒヤリングを実施した。

②脚本の寄贈移管

複本の寄贈先として、国際日本文化研究センターが加わった。

今年度はテレビ脚本の複本 1034 冊を寄贈した。今後も引き続き、年間 1000 冊程度を目標に移管すべく合意している。

④ 川崎市市民ミュージアム所蔵の脚本移管

市民ミュージアムに所蔵されていた脚本については昨年度、川崎市民プラザに移管。箱に保管中の脚本については、事前に借用申請を提出し、放送ライブラリーでの展示に利用している。

今後は新たなミュージアムへ移管する準備として、川崎市との協同研究などを目指し、デジタル化などを行っていききたい。

⑤ 放送局との連携に向けた研究

脚本の所蔵主体として、各放送局のライブラリー・アーカイブスは看過できないが、公的機関と異なり、公開を前提としていないため所蔵の把握が極めて難しい。そこで、上記所蔵館連絡会と並行し、各局のライブラリー部との連携準備として 2019 年度より放送局へのヒヤリング等を開始。しかし、今年度は新型コロナウイルスの蔓延により放送局への立ち入ることがさらに厳しくなった。今後はコロナ終息後を見越し、民放局に関し継続して日本民間放送連盟を通じ、再度ライブラリー部の方々への連絡会に向けた依頼を行う予定。

⑥ 大学連携（社会的活用研究）

現在の連携大学機関：東京大学大学院情報学環、早稲田大学、日本大学芸術学部、法政大学、専修大学、国立情報学研究所、同志社大学。

・シニア世代への社会的活用として、港区の協力のもとシニアサロンにて回想法セミナーを実施。

(1)「作家的回想法～思い出話をしませんか～」10/12（水）13時半～15時

(2)「続・作家的回想法～懐かしい思い出をカタチに～」3/8（水）13時半～15時

第7章 委員会の開催

検討委員会の開催（オンライン開催）

- ・第1回：2022年11月1日（火）14:00～16:00
- ・第2回：2023年1月12日（木）14:00～16:00
- ・第3回：2022年3月15日（水）14:00～16:00

【検討委員会メンバー】

所属	氏名	役職
東京大学	吉見 俊哉	大学院情報学環教授（検討委員会座長）
日本大学	上滝 徹也	名誉教授
国立国会図書館	金井 ゆき	利用者サービス部 音楽映像資料課 課長
日本脚本家連盟	金子 成人	理事・著作権委員長
	柳井 克朗	事務局長
日本シナリオ作家協会	佐伯 俊道	理事長
	窪田 信介	監事/桜美林大学 准教授
	阿相 クミコ	理事
	関 裕司	事務局長
日本放送作家協会	さらだ たまこ	監事
	香取 俊介	理事
日本放送協会	屋敷陽太郎	NHK第三制作センター長
	阿部 康彦	NHK アーカイブス
NHK 放送博物館	磯崎 咲美	学芸員
日本民間放送連盟	田嶋 炎	参与
放送番組センター	齋藤 香子	アーカイブ・事業グループ
	鈴木 貴尚	アーカイブ・事業グループ
川崎市市民ミュージアム	磯崎 茂	川崎市市民文化局市民文化振興室収蔵品修復調整担当
早稲田大学演劇博物館	岡室 美奈子	早稲田演劇博物館館長
国立映画アーカイブ	岡田 秀則	主任研究員・資料室長
	宮本 法明	任期付研究員
映像産業振興機構(VIPO)	槇田 寿文	事務局次長
日本動画協会	山脇 壮介	事務局次長
日本脚本アーカイブズ 推進コンソーシアム	池端 俊策	代表理事
	石橋 映里	常務理事・事務局代表
	入山 さと子	理事・収集管理部門主任
文化庁	吉井 淳	参事官(芸術文化担当)付 参事官補佐
	岩瀬 優	参事官(芸術文化担当)付 映画振興係員
	五十嵐由佳	参事官(芸術文化担当)付 映画振興係専門職
総務省	總山 薫	情報流通行政局 情報通信作品振興課流通調整係長
法律アドバイザー	福井 健策	弁護士 日本大学芸術学部客員教授
	原口 恵	弁護士

第8章 シンポジウム、その他イベント

8.1 脚本アーカイブズシンポジウム

シンポジウムを下記のとおりオンラインで開催した。

■題名 『脚本は誰のもの？～文化を伝える放送脚本・台本を未来へつなぐために』

■日時 2023年3月12日（日） 13時半～17時 オンライン実施

■参加者 登録者：125名（登録285名）見逃し配信による視聴

■内容

○ご挨拶 13:30～13:45

- ・林保太（文化庁 文化戦略官 芸術文化支援室長）
- ・吉永元信（国立国会図書館館長）
- ・池端俊策（日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム代表理事）
- ・活動報告（事務局・石橋映里）

○第一部座談会

「台本から読み解く世相文化～懐かしいあの番組の制作秘話」

奥山侑伸氏（放送作家）、鶴間政行氏（放送作家）、内村宏幸氏（放送作家・日本放送作家協会理事長）

○パネルディスカッション

「脚本は誰のもの？」～デジタル脚本アーカイブズの未来～

池端俊策氏（脚本家）、佐伯俊道氏（脚本家・日本シナリオ作家協会理事長）

福井健策氏（弁護士・骨董通り法律事務所）、司会：吉見俊哉氏（東京大学大学院情報学環教授）

参加者 140名（登録285名）見逃し配信による視聴は200名を超えた。

【シンポジウム概要】

○第一部 座談会 『台本から読み解く世相文化～懐かしいあの番組の制作秘話』

登壇者：奥山侑伸、鶴間政行、司会：内村宏幸

放送作家協会理事長で「オレたちひょうきん族」「笑う犬シリーズ」「LIFE!」などのコント番組の構成を手掛ける内村宏幸氏の進行により、「シャボン玉ホリデー」「ゲバゲバ90分」などの番組を手掛けてきた85歳の現役放送作家・奥山侑伸氏と、「欽ちゃんのどこまでやるの」

「SMAP×SMAP」「ごきげんよう」などのバラエティー番組を手掛けた放送作家・鶴間政行氏に業界に入った切っ掛けや番組制作にまつわる秘話などを司会の内村氏の体験も交えて和気藹々と語っていただいた。奥山氏からは「シャボン玉ホリデー」や「8時だヨ、全員集合」に携わるようになったいきさつや名物プロデューサーの逸話などを、鶴間氏からは「欽ちゃんの仮装大賞」が紅白の裏番組として企画されたことや「ごきげんよう」で有名なサイコロトークの誕生秘話が語られた。鶴間氏の考えたサイコロトークは二十数年続く人気コーナーとなり、その後いろいろなバラエティー番組でも使われているが、アイデアについて権利を主張したい

という意識はなく、演者の魅力と視聴者の興味に自身の考えたアイデアがぴったりハマり時代の流行を作った時が構成作家の醍醐味であるという話に一同大いに共感。また、奥山氏が放送作家協会 20 周年の記念行事で「台本供養」として自分たちが手掛けた番組の脚本を「供養」と称してお焚き上げた場に立ち会ったエピソードを語ると、過去の放送文化を知るために脚本を残そうというアーカイブ活動が行われている現在との隔世の感に堪えないという声があがった。最後に今の若者はテレビを見ないという風潮について、テレビ以外に面白いものがいっぱい出てきた結果であるのでテレビ自体が面白くなくなったわけではなく、自分に合ったものをちゃんと見ればよく作られているということが判るという意見で一致して終了した。

○第 2 部パネルディスカッション『脚本は誰のもの？～デジタル脚本アーカイブズの未来～』

登壇者：池端俊策、佐伯俊道、福井健策、司会：吉見俊哉

最初に池端氏が過去に書いたドラマ脚本のリメイク化の話が持ち上がった際にドラマを放送した局にリメイクの可否について問い合わせたという体験を披露。もちろん返事は OK だが、福井弁護士はその背景に脚本を独立した成果物と定める法律と、脚本を映像・音声作品の「中間生成物」として捉える現場の認識との間に「ずれ」があることを指摘。最近は権利の所在を細かく決める「ハリウッド方式」の契約も増えているとのこと。

佐伯氏は「オリジナル企画」や「オリジナル脚本」の権利が脚本家にあることを示すためにシナリオ作家協会が作成した「脚本契約 7 原則」を紹介。他にも、山田太一氏などは自身の脚本のセリフを無断で変えることはさせなかったが、最近プロデューサーや演出家の意見に従い脚本を変えることが多いので脚本家の精神が背骨として通っている作品が少なく脆弱な脚本が目立つという意見や、オリジナルの作品が書ける若い脚本家が少ない、現場で許可なく脚本を変えられてしまうなどの現状を危惧しつつも SNS ですぐ話題になるので視聴者の反応に敏感なプロデューサー主導で制作されてしまうのもやむを得ない面がある等々、脚本家ならではの経験談が多く語られた。

制作サイドが作品の「設計図」である脚本の雑誌掲載に難色を示したり、ネタバレ防止のために脚本が一般の人の目に触れてはいけないもののように扱われていたりする現状について司会の吉見氏は、脚本は作品を楽しむ全ての人の物であり、過去の脚本は未来の脚本家にとっての宝となるはずなので脚本がもっと広く読まれる土壌を育てることの重要性を示唆。白熱したディスカッションの中で、二十年という長い期間をかけて脚本アーカイブを構築してきた意義を改めて感じられる内容となった。

【事後アンケートについて】

「脚本アーカイブズを知っていたか？」という質問に、知っていた 68.8%、聞いたことがある 15.6%。認知度が上がっている印象を受けた。初参加が 34.4%となっており、リピート参加も多いことが分かった。

【アンケート回答コメント抜粋】

* 脚本アーカイブズ活動（台本・脚本の収集保存等）に関係するシンポジウムではありましたが、台本の著作者の目線でシンポジウムを行なったことで、より広がりのある内容になったと思います。とてもよいシンポジウムでした。

* 放送作家と脚本家のどちらでもある身としては、第一部も第二部も大変興味深く拝聴しました。内村さんの書かれたコトで育った世代ですが、奥山さん、鶴間さんのレジェンドのお話はとても貴重で「今このお話を聴くことができなんて幸せなのだろう…！」と震えました。

* 台詞 ところが一番重要ですね。私も若い頃ご一緒した NHK ドラマ班「鉄の伝説」他 NHK 出版にもなく苦勞いたしました。脚本のアーカイブ化と音声映像の時間軸が加われば更なる後輩達の知識となるでしょう。

* 第一部も第二部もとても面白かったです。第二部の「脚本は誰のもの？」とても勉強になりました。

* 影響はあるが消え去りがちな大衆文化の資料として大切だと思います。

* 30 年後、100 年後を見据えて今後のアーカイブズに関して、どうあるべきか考えていかなくてはいけないと感じました。シナリオ（台本）の重要性と権利についても改めて考えました。大変勉強になりました。

* 今回のように貴重な現場の体験談をもっとお聴きしたいです。

*（脚本寄贈）受入の再開をお願いします。

* 文化的な価値を再認識しました。奥山氏訪中時のエピソード、現地の台本保管環境など驚きました。

* 脚本アーカイブズ活動は、大変素晴らしく、敬意をもって、見守っております。

シンポジウムの開催も大変有難く、回数を増やしていただきたく存じます。

* 実際にドラマ化された脚本を読める機会が少なく、勉強中の身としては残念に思っていたので、今後アーカイブで読めるようになればたいへん有難いです。

* 第二部では、著作権法の視点と現場で使う台本になっていく視点の両方を個別ではなく同じ土俵で考えるというのが特に興味深かったです。

* 年一は少ない気がしました。先生方のお話を聞ける機会が少しでも増えたら幸いです。

* 知らないこと学ぶが良い。昨年の著作権は、分かりやすく、大変良かった。今年の座談会も、昔の裏話を知ることができて良かった。来年は、現代に近い現状座談会に興味あり。第二部、価値があるのだろうが、重い。第一部、第二部とも、女子の出演が必要な時代。キャスティングが時代遅れ。

*今回も体験に基づく、貴重なお話問題提起を聞くことができました。持続的な活動の重要性を強く感じました。

*昨年から紙芝居の脚本を書いており、池端先生、佐伯先生のお話が聞けたことは、大変光栄でとても勉強になりました。また、脚本の二次利用についても新たな気付きがありました。紙芝居の最後の二枚の脚本と絵を改変し落語調にして使いたいと相談され、画家と相談して了承しましたが、実際に改変作品を観て、承諾を後悔していたところでした。改変してもらって構わないが、私たちの作品とは別の作品だということをはっきりしておきたいと、モヤモヤした気持ちでございました。今回のシンポジウムで、クリエイティブ・コモンズ・ライセンスの活用や、文化庁著作権契約書作成の様式の活用を検討してみよう…と、今後へのヒントをいただきました。ありがとうございました。

そして、脚本アーカイブズは、今と未来の人たちへの大変貴重な贈り物だと思いました。今を生きる脚本家としては、過去のものから学ぶことは多く、よくぞ作ってくださったという思いです。池端先生の「待ち伏せする」という言葉、大変心に響きました。

*脚本アーカイブズは、未来の脚本志望者や未来の脚本家が、過去の時代にどのような脚本が存在していたかを研究及び探求追跡して、自らの創作の為の指針や参考にするために重要なことが一番であってほしい。現に生きている脚本家が、過去に自ら描いた脚本が貯蔵されていることを検証し、満足する為ではないという事を第一に考えてほしい。脚本アーカイブズは常に未来の脚本を書こうとする者、更にはそれらの脚本を、研究しようとする人々の為に存在している事を忘れないでほしい。

*今年はNHK放送70周年で、過去の録画や制作秘話等を見聞きする機会が多かったです。その度に脚本アーカイブズ活動が思い浮かび、この活動の重要性を実感しました。過去には(「ご供養」とはいえ)脚本を燃やしてしまった!ということもあったとか、時代を経てみればなんとも惜しい事でした…。今日の皆さまの活動に敬意を表しつつ、ご継続とご発展をお祈りいたします。

*これからも継続して活動を広めて下さい。

*脚本や台本等を後世に残すためのアーカイブに加え、一時代を動かした様々な方々のお話もなんとか後世に残したいと考えます。微力ながらいろいろ行動しようと考えています。

8.2 共催セミナー（オンライン）

VIPO と共催により、有料のテレビドラマ制作セミナーを開催した。

放送局や映画会社からの参加も多く、海外展開などのビジネス的な話題も多いセミナーである点が、他のイベントと異なる点といえる。

今回は「大恋愛」など数々の話題作を送り出す脚本家大石氏と共に、「おっさんずラブ」のプロデューサー貴島氏が登壇。面白いドラマを生み出す脚本家とプロデューサーの関係、日本のオリジナルドラマの海外展開や今後の展望について、SNS を利活用した宣伝展開などが語られた。

- ・日時：2022年11月22日
- ・題名：「テレビドラマ制作セミナー ～日本発オリジナルドラマの真髄～」
- ・講師：大石静氏（脚本家）
貴島彩理氏（テレビ朝日プロデューサー）
モデレーター・さらだたまこ（日本放送作家協会監事）



8.3 展示企画

映像を所蔵する放送番組センターと連携し、放送ライブラリー内の1コーナーに脚本15～20冊を展示。年3回を目標に展示替えを行い、脚本アーカイブズ活動の周知を図り、脚本への興味を喚起した。

- 2022年4月～6月 大河ドラマ『ドラマが描いた「人」と「時代」』
- 2022年7月～9月 2時間サスペンスドラマ『消えた・・・2時間サスペンスの謎』
- 2022年10月～2023年3月 音楽歌番組『歌は世につれ世は歌につれ・・・』

■展示詳細

① 2022年4月～6月 特集・大河ドラマ『ドラマが描いた「人」と「時代」』

第1作となる『花の生涯』の放送は1963年4月。当時は「大河ドラマ」というシリーズ枠はなく、「大型時代劇」と銘打っていた。「大河ドラマ」という言葉は、読売新聞の紹介記事に「大河小説」になぞらえて使われ、NHKではシリーズ開始15周年記念番組『大河ドラマの15年』（1978）以後に定着した。第2作で1月開始となり、多少の変則を交えつつも1回45分・

日曜夜・1年間（50回前後）の放送形態が続いた。来年放送予定の第62作『どうする家康』で、放送60周年を迎える。

描かれるのは、世の中が混沌とした戦乱の時代が多い。最多は16世紀半ば～17世紀初めの戦国武将が活躍する時代で、20作以上、全体の3割を占める。徳川家康、武田信玄、上杉謙信、織田信長、豊臣秀吉など教科書や歴史小説でもおなじみの戦国武将の生涯を描いた作品に留まらず、『風林火山』『軍師官兵衛』など武将に仕えた軍師や、『おんな太閤記』『利家とまつ』『功名が辻』など武将の妻、『毛利元就』など地方の武将も主人公に取りあげられている。

次いで多いのは黒船来航から明治維新に至る幕末期で、維新の英雄や大政奉還を決断する幕府側の人物を取りあげた『勝海舟』『徳川慶喜』『篤姫』『龍馬伝』『西郷どん』など14作。続くのは、現在放送中の『鎌倉殿の13人』の舞台でもある平安末期の源平合戦から鎌倉幕府成立に至る時代で、『新・平家物語』『草燃える』など6作品がある。

最も古い時代を描いたのは、10世紀・平安中期の東国を舞台に、都の貴族社会に反旗を翻した平将門が主人公の『風と雲と虹と』。一方最も新しいものは、終戦から高度経済成長期に至る戦後40年を描いた『いのち』である。奈良時代や9世紀までの平安時代を描いた作品は無く、鎌倉中期～室町中期も『太平記』『花の乱』『北条時宗』の3作品と少ない。明治以後も『山河燃ゆ』『春の波濤』『いのち』『いだてん』の4作のみである。

『三姉妹』など架空の人物が主人公の作品もあるが、ほとんどは歴史上実在した人物である。最も多いのは大石内蔵助で、元禄時代が舞台の4作のうち3作で主人公となっている。織田信長が主人公の作品は2作だが、『真田丸』『麒麟がくる』など同時代を描いた16作品に登場。高橋幸治、藤岡弘、吉田剛太郎、染谷将太など様々な俳優が演じた「信長」を比較したり、『草燃える』で北条義時役の松平健が『鎌倉殿の13人』では平清盛役で見られたりするのも、長期シリーズならではの醍醐味である。



【展示脚本概要】

『平清盛』(第51作)

第47話「宿命の敗北」(2012/12/2) 2012/1/8~12/23 全50話 脚本：藤本有紀

『源義経』(第4作)

第43話「吉野の雪」(1966/10/23) 1966/1/2~12/25 全52話 脚本・原作：村上元三

『義経』(第44作)

第15話「兄と弟」(2005/4/17) 2005/1/9~12/11 全49話 脚本：金子成人 原作：宮尾登美子

『北条時宗』(第40作)

第38話「蒙古襲来③博多炎上」(2001/9/9) 2001/1/7~12/9 全49話

脚本：井上由美子 原作：高橋克彦

『太平記』(第29作)

第10話「天皇拳兵」(1991/3/10) 1991/1/6~12/8 全49話

脚本：池端俊策、仲倉重郎 原作：吉川英治

『花の乱』(第33作)

第26話「勝元暗殺」(1994/9/25) 1994/4/3~12/11 全37話 脚本：市川森一

『風林火山』(第46作)

第39話「竜虎激突」(2007/9/30) 2007/1/7~12/16 全50話 脚本：大森寿美男 原作：井上靖

『信長 -KING OF ZIPANGU-』(第30作)

第49話「本能寺の変」(1992/12/13) 1992/1/5~12/13 全49話 脚本：田向正健

『おんな太閤記』(第19作)

第21話「本能寺の変」(1981/5/31) 1981/1/11~12/20 全50話 脚本：橋田壽賀子

『天地人』(第48作)

第38話「ふたつの関ヶ原」(2009/9/20) 2009/1/4~11/22 全47話

脚本：小松江里子 原作：火坂雅志

『葵 徳川三代』(第39作)

第3話「五大老五奉行」(2000/1/23) 2000/1/9~12/17 全49話 脚本：ジェームス三木

『峠の群像』(第20作)

第21話「大石斬られるか」(1982/5/30) 1982/1/10~12/19 全50話

脚本：富川元文 原作：堺屋太一

『花の生涯』(第1作)

第15話「葉桜の章」(1963/7/14) 1963/4/7~12/23 全39話 脚本：北条誠 原作・舟橋聖一

『新選組!』(第43作)

第 33 話「友の死」(2004/8/22) 2004/1/11～12/12 全 49 話 脚本：三谷幸喜
『龍馬伝』(第 49 作)

第 47 話「大政奉還」(2010/11/21) 2010/1/3～11/28 全 48 話 脚本：福田靖

『篤姫』(第 47 作)

第 48 話「無血開城」(2008/11/30) 2008/1/6～12/14 全 50 話

脚本：田淵久美子 原作：宮尾登美子

『翔ぶが如く 第一部』(第 28 作)

第 28 話「江戸開城」(1990/7/22) 1990/1/7～12/9 全 48 話

脚本：小山内美江子 原作：司馬遼太郎

『八重の桜』(第 52 作)

第 1 話「ならぬものはならぬ」(2013/1/6) 2013/1/6～12/15 全 50 話

脚本：山本むつみ、吉澤智子、三浦有為子

『春の波涛』(第 23 作)

第 17 話「自由民権のゆくえ」(1985/4/28) 1985/1/6～12/15 全 50 話

脚本・中島丈博 原作・杉本苑子

『山河燃ゆ』(第 22 作)

第 35 話「兄弟対決」(1984/9/2) 1984/1/8～12/13 全 51 話 脚本：市川森一、香取俊介

『いだてん～東京オリムピック噺～』(第 58 作)

第 26 話「明日なき暴走」(2019/7/7) 2019/1/6～12/15 脚本：宮藤官九郎

『いのち』(第 24 作)

「結婚式」(1986/6/15) 1986/1/5～12/14 全 50 話 脚本：橋田壽賀子

② 2022年7月～9月 特集・2時間サスペンスドラマ

『消えた・・・2時間サスペンスの謎』

毎週のレギュラー番組として1時間を超える長時間ドラマを提供するドラマ枠の先駆けとなったのは、テレビ朝日の「土曜ワイド劇場」である。スチーブン・スピルバーグ監督の『激突!』などアメリカで毎週放送されているテレビ用のオリジナル映画（テレフィーチャー）を日本でも制作するべく『土曜ワイド劇場』枠を企画。1977年7月2日に第1回作品『田舎刑事 時よ、止まれ』（脚本・早坂暁、主演・渥美清）を放送。文芸ものや青春ものなども制作されたが「江戸川乱歩の美女シリーズ」の『密室の美女』が視聴率20%を超えたことから娯楽ミステリーが定着。90分の放送枠を1979年4月に2時間枠に拡大、「混浴露天風呂殺人シリーズ」など、週末の夜にくつろぐ男性を意識した作品が増えた。

日本テレビは80年4月に「木曜ゴールデンドラマ」で2時間ドラマ枠に参入。当初は誘拐物や松本清張原作ドラマなどもあったが、次第に人情ドラマが主流になった。この枠との住み分けをはかりサスペンスに特化した「火曜サスペンス劇場」枠が81年9月に登場。謎解きよりも事件を起こした人間の哀しみや苦しみを克明に描く等身大のドラマは、平日の夜に家事を終えて一息ついた主婦など女性たちに受け入れられた。

82年4月には1時間ドラマがメインだったTBSが「土曜ワイド劇場」の時間帯に「ザ・サスペンス」枠をぶつけてきて、視聴率争いが激化。

テレビ朝日は視聴者の興味を惹くため新聞ラテ欄のスペース一杯にドラマの内容が分かる長いサブタイトルと更に詳しいサブサブタイトルを表記するようになり各局にも広がった。

84年10月にはフジテレビも「金曜女のドラマスペシャル」枠で参入し、88年から91年の最盛期には民放キー局の2時間ドラマ枠が週に8つ並ぶこともあった。90年代のトレンドドラマ隆盛とともに2時間ドラマは「同じネタの繰り返し」などのネガティブなイメージから枠が半減したものの「犯人はいつも崖の上で自白」「テレビ欄で○番目に書かれた役者が犯人」などマンネリが逆にネタ的に楽しまれ、『家政婦は見た!』などの長期シリーズ放送を心待ちにする視聴者もいて人気を維持。

2000年にはついにテレビ東京も「女と愛とミステリー」枠で2時間ドラマに参入した。しかし、生活の多様化により視聴者がテレビを長時間視聴しなくなったことや、ドラマより制作費の安いバラエティ番組に枠が奪われるなどの理由から2005年に「火サス」が終了。

「土曜ワイド劇場」も2017年に幕を閉じ、2019年にTBSの「月曜名作劇場」が終了したことで地上波民放のゴールデン、プライムタイムから2時間ドラマ専用枠は消滅した。

【展示脚本概要】

ザ・サスペンス『十二年間の嘘～乳と蜜の流れる地よ～』

1982/11/23 TBS 脚本：市川森一

木曜ドラマストリート『明日を殺さないで』

1985/10/31 フジテレビ 脚本：渡辺千明 原作：赤川次郎

土曜ワイド劇場『混浴露天風呂シリーズ 那須塩原編』

混浴露天風呂殺人事件 那須の殺生石に消えたヌードギャル 女子大生 塩原温泉巡り
 1989/10/21 朝日放送 脚本：中村勝行
 火曜サスペンス劇場『女弁護士 高林鮎子⑩ 金沢発 15時52分の女』
 女弁護士高林鮎子(11)能登に消えた女 大阪発札幌行き、トワイライト号 20時間の空白
 1991/1/26 日本テレビ 脚本：高久進 原作：津村秀介
 火曜サスペンス劇場『小京都ミステリー5 奥飛騨・三寺まいり殺人事件』
 1992/1/28 日本テレビ 脚本：安本莞二
 火曜サスペンス劇場『新・女検事霞夕子4 輸血のゆくえ』
 1995/2/7 日本テレビ 脚本：橋本綾 原作：夏樹静子
 火曜サスペンス劇場『取調室2』
 取調室2 動機なき殺人？ 県警捜査本部が難攻不落の知能犯に挑んだ十二日間
 1995/7/18 日本テレビ 脚本：山田正弘、洞澤美恵子 原作：笹住佐保
 火曜サスペンス劇場『松本清張スペシャル 留守宅の事件』
 松本清張スペシャル 留守宅の事件 禁断の愛の一線を越えた従兄妹同志が落ちたアリ地獄
 1996/1/9 日本テレビ 脚本：大野靖子 原作：松本清張
 土曜ワイド劇場『火災調査官 紅蓮次郎』
 火災調査官・紅蓮次郎(1) 2000度の炎でも溶けなかった硬貨の謎…炎の複合連続殺人！7キロの遠隔操作トリック！
 2003/1/25 テレビ朝日 脚本：今井詔二 原案：鍋島雅治（作）、田中つかさ（絵）
 女と愛とミステリー内田康夫サスペンス 信濃のコロンボ事件ファイル4 戸隠伝説殺人事件！毒の平に振り下ろされた鬼の剣 愛を失った女の恨みが殺意に変わる
 2003/8/31 テレビ東京 脚本：佐伯俊道 原作：内田康夫
 土曜ワイド劇場『西村京太郎トラベルミステリー41 青函特急殺人ルート』
 西村京太郎トラベルミステリー(40) 青函特急殺人ルート 東京～札幌超豪華寝台カシオペアに罠が走る！30億女相続人が二度殺された！
 2003/9/13 テレビ朝日 脚本：篠崎好 原作：西村京太郎
 土曜ワイド劇場『家政婦は見た！22』
 家政婦は見た！子連れ秋子が政界の裏をのぞいた…女性の味方、女代議士三つの顔の秘密
 2004/1/10 テレビ朝日 脚本：柴英三郎
 監察医室生亜季子スペシャル 最後の解剖～頭蓋骨の毛細血管に秘められた主婦モデルとアルツハイマー母の悲しみ～
 2007/3/27 日本テレビ 脚本：宮川一郎、小木曾豊斗
 水曜ミステリー9『刑事吉永誠一 涙の事件簿6 黒い白髪』
 五億円の黒い白髪 疑惑の「黒い白髪」をめぐる横浜不動産王一族・砒素毒殺事件！愛人正妻対決
 2007/8/19 テレビ東京 脚本：田子明弘 原作：黒川博行

土曜ワイド劇場『法医学教室の事件ファイル XXXVIスペシャル』

法医学教室の事件ファイル(36)すべてが 1/2 の死体の謎…疑惑の女弁護士 VS 女医！綺麗な殺害現場？と 3 cm 足りない髪の実験

2013/3/30 テレビ朝日 脚本：今井詔二

■浅見光彦シリーズ

金曜エンタテイメント『浅見光彦シリーズ① 伊香保殺人事件』

内田康夫ミステリー 浅見光彦シリーズ1・伊香保殺人事件 家元の跡目をめぐる謎の連続殺人、今夜蘇る二十年前の愛憎の行方

1995/12/8 フジテレビ 脚本:大久保昌一良 主演:榎木孝明

金曜エンタテイメント『浅見光彦シリーズ第23弾 日光殺人事件』

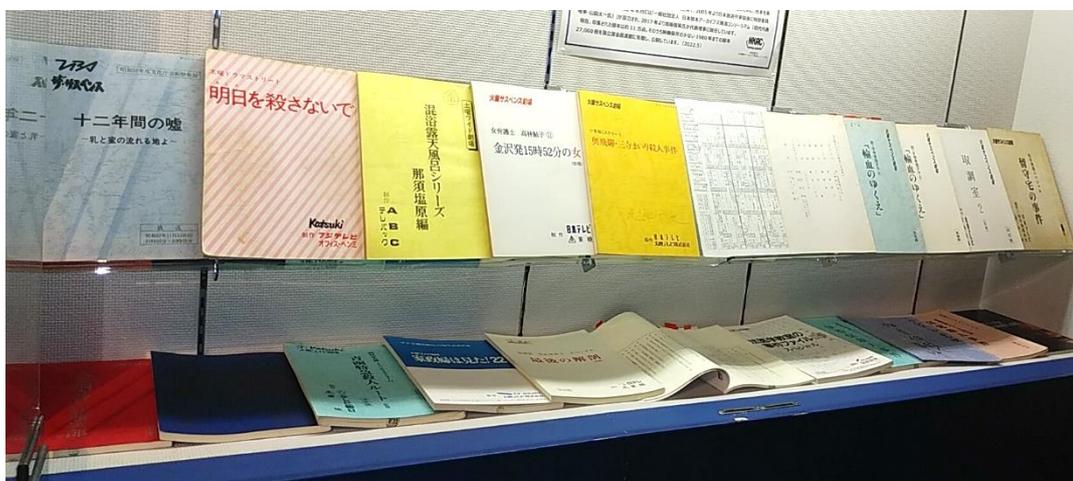
浅見光彦シリーズ23～日光殺人事件～ 東照宮と明智光秀の因縁を追う光彦に連続殺人の挑戦状！華嚴の滝に渦巻く愛憎…短歌が語る真相

2006/4/7 フジテレビ 脚本:峯尾基三 主演:中村俊介

月曜ゴールデン『浅見光彦シリーズ32 天河伝説殺人事件』

浅見光彦シリーズ32 天河伝説殺人事件～奈良路に新光彦登場！能舞台の奇妙な殺人は宗家後継を巡る連続殺人の序章…伝説の鈴に秘めた愛…封印した涙と過去

2013/2/25 TBS 脚本：林誠人 主演:速水もこみち



③ 2022年10月～2023年3月 特集・音楽番組

『歌は世につれ世は歌につれ・・・』

年の瀬に出場者がニュースで紹介される『NHK 紅白歌合戦』（以下『紅白』）は今や日本の風物詩ともいえる長寿音楽番組である。1951年からラジオで正月に放送していた『紅白』はテレビ放送開始後の1953年に大晦日に放送が移ったが、テレビにおける最初の音楽番組は『紅白』放送の一月前に始まった『歌の花束』と言われている。『歌の広場』『歌のグランド・ショー』などの番組に引き継がれ、若手からベテランの歌謡曲・演歌歌手が出演し、歌を披露するスタイルが定着した。

1959年に始まった『ザ・ヒットパレード』は、ザ・ピーナッツをはじめとするポピュラー歌手が海外のヒット曲を日本語でカバーし、海外ポップスを日本に浸透させた。ショートコントの合間に踊りやジャズの演奏、歌などが挟まれた音楽バラエティー番組『夢であいましょう』からは「上を向いて歩こう」「こんにちば赤ちゃん」などのヒット曲が生まれ、『シャボン玉ホリデー』ではザ・ピーナッツやクレージーキャッツとハナ肇、『レ・ガールズ』ではアイドルグループ「レ・ガールズ」（由美かおる、金井克子、奈美悦子、原田糸子、江美早苗）がコントや歌を披露した。

『TBS 歌謡ベストテン』は、テレビにおける歌謡曲のベストテン形式の番組の草分けだが、当時はレコード会社の反発が強く上位10曲を順不同で紹介していた。テレビの歌番組の人气が高まると『日本レコード大賞』、『日本歌謡大賞』など歌謡曲の賞レースを中継する番組が最盛期には年間10本以上放送され「音楽賞レース」という言葉も生まれた。アイドル人气が高まると『ザ・ベストテン』、『ザ・トップテン』などレコードの売り上げやリクエストの数が順位に反映されるランキング番組が人気となった。

1980年代以後のヒットチャートは「アイドル」「アーティスト」「バンド」「歌手」とファン層が分かれ、以前のような国民的ヒット曲は生まれにくくなった。音楽賞レースに興味を示さず辞退するアーティストも増え、音楽番組の視聴率は低下。1990年代には賞レースの中継番組やランキング番組が終了し、『NHK 歌謡コンサート』の後継番組『うたコン』や、『ミュージックステーション』『FNS 歌謡祭』など自身の持ち歌やテーマに沿った楽曲のパフォーマンスを披露する番組が主になっている。

テレビでは歌番組だけではなく、クラシックなどの音楽を紹介する番組も数多く放送されている。『題名のない音楽会』は現在も続く長寿番組でクラシック音楽を中心にさまざまな分野の音楽を取り上げ、そのテーマとなる音楽の楽しみ方を解説している。演奏家に焦点を当てた『私の音楽会』も25年続き、演奏だけでは伝わらない演奏家の人柄もインタビューで紹介した。『タモリの音楽は世界だ』はクラシックのみならず、パンクやロックなど様々なジャンルの音楽をクイズバラエティーという形式で紹介した。

【展示脚本概要】

～西野企画（旧・西野バレエ団）からの寄贈脚本～

『歌のグランド・ショー』

第1回（1964/4/12）NHK 1964/4/12～1968/3/31 構成：西野皓三

『プラチナ 明星ゴールデンショー』

第3回（1966/10/23）日本テレビ 1966/10/9～1971/4/25 構成：西野皓三、松本重美

『レ・ガールズ』

第25回「ミニ・ミュージカル・夕陽に赤い俺の拳銃（ガン）」（1968/1/19）

日本テレビ 1967/8/4～1968/7/12 構成：西野皓三、松本重美、阿久悠

～歌番組 脚本～

『ヤマハ・ヤング・ジャンボリー』

第126回（1966/11/7）TBS 1966/5/28～1968/12/26 構成：奥山侑伸、前田憲男

『第1回日本作曲大賞 今夜決定！'81 ベストヒットメロディ 日本作曲大賞は誰の手に！！』

1981/9/30 TBS 構成：奥山侑伸、河村達樹、秋元康

『オールスター家族対抗歌合戦』

「放送10年記念お楽しみ大会・素晴らしき歌の家族たち」（1981/10/4、11、18）

フジテレビ 1972/10/1～1986/9/28 全699回 構成：塚田茂、柴田昭

『ザ・ベストテン』

第201回（1981/12/10）TBS 1978/1/19～1989/9/28 全603回 構成：小山泰雄

『歌のワイド90分！』

1982/10/13 日本テレビ 1982/10/13～1986/9/17

構成：玉井冽、内海譲司、浦沢義雄、松井智代子、スタッフ東京

『輝け！第14回 日本歌謡大賞』

1983/11/11 テレビ東京 構成：宮川鎮一、林山武人、近藤孝麿、坂井隆夫、田中義一、石黒正保ほか

『恒例第十八回 年忘れにっぽんの歌』

1985/12/31 テレビ東京 構成：曾我部博士

『夜のヒットスタジオ DELUXE スペシャル』

『FAN』

第84回（1996/12/6）日本テレビ 1995/4/14～1998/9/25 構成：木崎徹、白木礼司村新司と安室奈美恵。

『ミュージックステーション』

第489回（1997/10/31）テレビ朝日 1986/10/24～放送中

『演歌の花道』

第1000回（1998/8/2）テレビ東京 1978/10/1～2000/9/24 構成：曾我部博士

『NHK 紅白歌合戦』

第 59 回 (2008/12/31) NHK 構成：AKO、井上知幸、朝長浩之、播田ナオミ

『きよしとこの夜』

2007/4/5 NHK 2005/3/28~2009/3/12 158 回 構成：朝長浩之

『NHK 歌謡コンサート』

第 800 回『祝 800 回！うたまつり』(2012/7/17) NHK 1993/4/17~2016/3/15 全 948 回

構成：朝長浩之

～音楽番組脚本～

『私の音楽会』

(脚本) 第 2 回 (1973/4/28) 日本テレビ 構成：城悠輔

(公開録画パンフレット) 第 259、260 回 (収録：1983/1/21)

『タモリの音楽は世界だ』

第 1 回 1990/10/13 テレビ東京 1990/10/13~1994/9/10 構成：奥山侑伸、田村隆、野村正

浩



脚本アーカイブズ活動は、文化庁、NHK、日本民間放送連盟、放送文化基金、日本脚本家連盟、日本シナリオ作家協会、日本放送作家協会、国立国会図書館、川崎市市民ミュージアム、国立映画アーカイブ、早稲田大学坪内記念演劇博物館、映像産業振興機構、放送ライブラリー、NHK アーカイブス、NHK 放送博物館、法政大学、日本大学芸術学部ほか多くの皆様のご協力とご支援により支えられています。心より感謝申し上げます。

令和5（2023）年3月31日発行

発行 一般社団法人 日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム

編集/執筆

石橋映里・入山さと子

〒102-0081 東京都千代田区四番町 4-9 東越伯鷹ビル5階

一般社団法人日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム

TEL : 03-5210-7029 FAX:03-5210-7021

Email : nkac@hosakkyo.jp <http://www.nkac.jp/>

本誌の無断複写（コピー）は、著作権上の例外を除き著作権侵害となります。



本報告書は文化庁の委託事業として、一般社団法人 日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアムが実施した令和5(2023)年度「文化関係資料のアーカイブ構築に関する調査研究」の成果を取りまとめたものです。

したがって、本報告書の複製、転載、引用等には文化庁の承認手続きが必要です。